

平成 29 年 1 月 30 日
電子リソースデータ共有作業部会

電子リソース管理システムの利用可能性の検証について（平成 28 年度最終報告）

1. 検証の背景

「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（基本方針）」（平成 28 年 6 月 29 日
これからの学術情報システム構築検討委員会）において、電子リソース（＝電子情報資源）については、「電子情報資源への適切な対応のための資源（人的資源、システム資源、経費を含む）の確保のために、書誌作成と書誌管理作業の軽量化を図る」とされており、「紙媒体資料の書誌データと、国内外の電子情報資源」との「統合的検索環境の実現」等が課題として挙げられている。以下は本作業部会における、電子リソース管理業務の改善方策の検討の一つとして行っている電子リソース管理システムの利用可能性の検証に係る中間報告（今年度最終報告）である。

2. 検証の概要

（ア）実施主体

電子リソースデータ共有作業部会

（イ）実施対象

① 360 Resource Manager Consortium Edition（以下 360RMC）（ProQuest 社）
360RMC はグループ利用が可能な電子リソース管理システム（ERMS）¹であり、「Consortium Manager（親）によるメンバー（子）のリソース管理」や「親から子へのタイトルリストなどの情報共有」等の機能を持つ。

② Alma（Ex Libris 社）

（ウ）実施期間

① 360RMC：1 年間（平成 28 年 2 月～平成 29 年 1 月）

② Alma：1 年間（時期調整中） ※以降の記述には Alma は含まれない

3. 360RMC の検証内容

（ア）電子リソース情報（パッケージ、タイトル、モデルライセンス）の管理・共有

① JUSTICE 用のタイトルリスト作成の要・不要

② コンソーシアム内の親機関（JUSTICE 等）から子機関（各会員館）へのタイトルリスト及び利用条件の共有

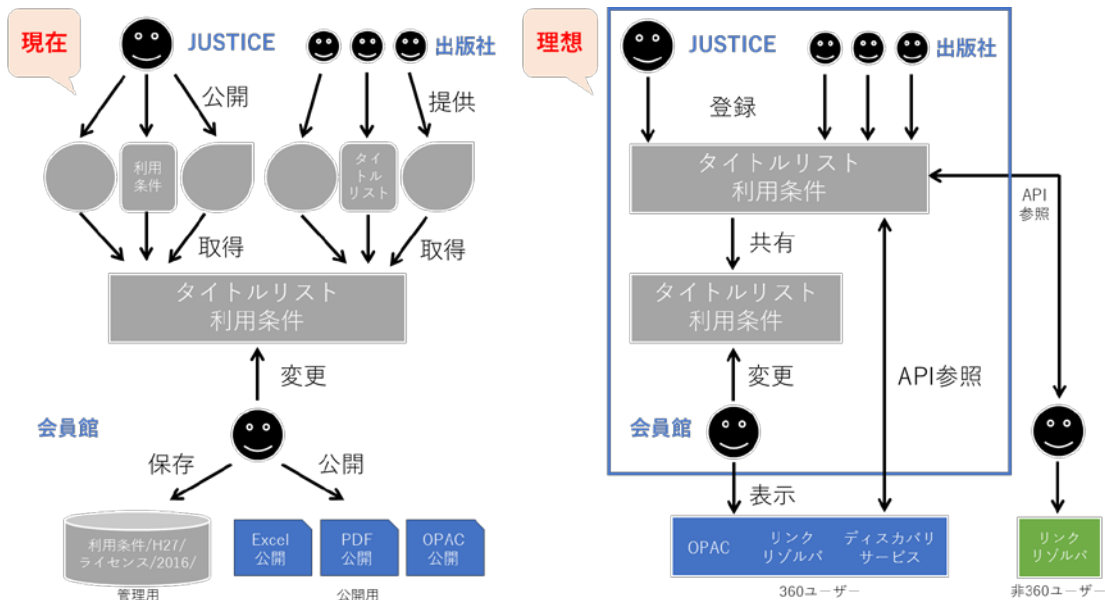
（イ）電子リソース管理業務の効率化のためのワークフロー

¹ ERMS とは、Online Dictionary for Library and Information Science (ODLIS) によると「第三者が電子的に出版し図書館で契約した情報資源（データベース、電子ブック、電子ジャーナル等）を、図書館員が管理するために支援を行う用途で開発されたシステムで、ライセンス管理、更新、法定利用、アクセス管理および蔵書構築を含む。」とされている。

- (ア) の調査を通じた管理業務効率化の可否
- (ウ) 適切な電子リソース管理による利用活性化や利用者サービスの向上

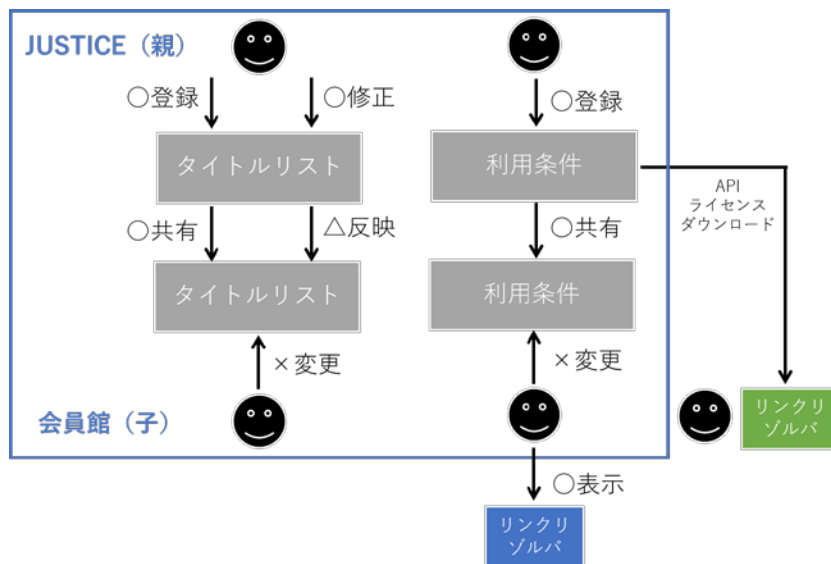
- ① 利用条件表示テスト (リンクリゾルバ中間窓)
- ② API テスト (タイトルリスト/利用条件表示)

以下に現状と 360RMC を利用することによって期待されるワークフローを図示する。



4. 360RMC の検証結果

検証結果について、以下に図示する。



概要：

単館での電子リソース情報 (パッケージ, タイトル, モデルライセンス) の管理については一定程度の有効性を検証できたが、コンソーシアムでの運用については、契約を各機関で行う JUSTICE モデルでは、活用が難しいことが分かった。

(ア) 電子リソース情報（パッケージ、タイトル、モデルライセンス）の管理・共有

① JUSTICE 用のタイトルリスト作成の要・不要

JUSTICE 2016～2017 年版コンソーシアム提案書のうち、タイトルリストが掲載されていた比較可能な 30 パッケージについて、グローバル・パッケージとの重複分析を行った。その結果、パッケージ間で重複するタイトルが 90% 以上のパッケージが 26 パッケージ存在し、これらについては JUSTICE 用のタイトルリストの作成が不要であることが分かった。

② コンソーシアム内の親機関（JUSTICE 等）から子機関（各会員館）へのタイトルリスト及び利用条件の共有

親から子への共有および利用条件の表示ともに可能であったが、現時点では以下の 2 点の機能は未搭載であった。

- ・パッケージと利用条件のリンク関係を保持したままの共有
- ・親がパッケージの利用条件を変更した場合、子にアラートを送る仕組み

(イ) 電子リソース管理業務の効率化のためのワークフロー

① JUSTICE 用のタイトルリストは既に 360RMC に搭載されたグローバル・パッケージとの重複が多いため、360RMC 搭載の情報を利用することで、効率的なリスト管理が可能である。

② コンソーシアム内の親機関（JUSTICE 等）から子機関（各会員館）へのタイトルリスト及び利用条件の共有では、同一システム内での作業が可能のため、出版社ごとの個別対応やフォーマットの違いに対する作業が不要となり、大幅な業務の効率化が図れる。一方で、現状では共有された情報を各機関側で変更できないため、契約を各機関で行う JUSTICE モデルでは、活用が難しい。

(ウ) 適切な電子リソース管理による利用活性化や利用者サービスの向上

① 利用条件表示テスト（リンクリゾルバ中間窓）

利用条件の表示が可能であり、利用者が図書館に問い合わせることなく利用条件が確認可能であった。

② API テスト（タイトルリスト/利用条件表示）

利用条件を取得する API があるが、利用条件全体が XML 形式でダウンロードできるのみであることが分かった。そのデータには個々のパッケージ等の ID が付与されていないため、API 単体では外部からの利用が難しいが、XML ファイルを加工して利用することは可能であった。

5. 次のアクション

360RMC で未解決の課題解決に関する検証を実施するため、代表的な Library Services Platform（LSP）である Ex Libris 社の Alma²について検証作業を実施する。

² Alma：あらゆる図書館コレクション（冊子／電子／電子アーカイブ等）の管理業務（選書／受入／目録・メタデータ管理／統計分析等）を統合的に行うためのクラウド上のプラットフォーム。コンソーシアム・ワークフローのサポート、オープンプラットフォーム採用による高

Alma については、既に海外の複数のコンソーシアムでは共同導入がなされており、ERMS による電子リソースの単体管理に代わり、冊子／電子／デジタル資源を含めた統合的な管理を行う LSP の導入が拡がりを見せるなかで、現状では競合製品のなかで Alma に優位性があることが明らかになっている。

最終報告では調査・検証内容のまとめのほか、電子リソースの適切な管理・提供のための提案を行い、電子リソース対応に関する諸課題の解決の端緒としたい。

以上

いカスタマイズ性、図書館全体のシステム経費節減を謳っており、クラウド上での個人情報保護 (ISO 27018) にも対応している。OCA (米国)、BIBSYS (ノルウェー)、JULAC (香港) などのコンソーシアムや各国の主要大学で導入されている。